

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890700129		
法人名	医療法人社団 中野泌尿器科		
事業所名	グループホームたかくらの夢		
所在地	神戸市須磨区高倉台4丁目2番7号		
自己評価作成日	2015年 11月 25日	評価結果市町村受理日	2016年 2月 23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104
訪問調査日	2015年 12月 18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>母体が医療法人なので、入居物様の健康状態を把握し、主治医・看護師と連携し適切な指示により、日々の健康管理ができています。朝・昼・夕の食事は入居者様と職員と一緒に作り、一緒に食べています。特に高齢化の進む高倉台にあり、気軽に立ち寄って相談が出来るように地域の主催の行事にも積極的に参加しています。</p>
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は40年以上前に開発された高台の住宅地に位置し、急激に高齢化が進んでいる。隣接して商店街とスーパー、公園があり、居室や喫茶室から、買い物に来る高齢者や、若い母子の姿が見られる。利用者はこの地に馴染んだ人が多く、住み慣れた地で地域と関わりながら生活が継続できている。開設1年目ながら、事業所主催の秋祭りには住民180人の参加があり、自治会との関係は良好である。ボランティアの受け入れや、地域のイベントへ参加するなど積極的に地域と交流している。好立地条件に加え、協力医療機関からのバックアップがあり、医師、看護師と24時間オンコール可能で、利用者、職員相互に安心な医療体制が整っている。母体医療法人が泌尿器科であり、専門性を生かし透析が必要な利用者の受け入れも可能で、今後さらに事業所の特性を生かした取り組みが期待できる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を名札と一緒に常に携帯し、共有し意識して実践している	開設から1年、理念を玄関に掲示している。職員は理念が記載されたカードを携帯するなど理念が浸透する努力をしている。職員が定着しつつあり、特に利用者の尊厳を守ることや個性を尊重した個別ケアを大切に考え実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われている各行事へ参加し、商店街で買い物もしている。地域のボランティアに来て頂き、交流している	日常的に買い物や理髪店の利用をしている。また、銭太鼓やコーラス、絵手紙などのボランティアを受け入れている。今後、さらに地域に事業所を知ってもらうための見学会を設ける予定もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人を含む介護相談に来所される方の相談に応じている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を行い、入居者様・家族様・地域の方に参加して頂き、ホーム内の行事報告や入居者様の近況報告を行い家族様からの要望を伺い、サービス向上に活かしている	自治会長が協力的で、会議では報告以外に地域の課題が議題になることもある。最近では徘徊をテーマに話し合った。事業所近辺からの利用者が多く、家族の参加も多い。議事録は報告書として参加者に配布している。	事業所の取り組みへの理解のために、会議の内容は、全利用者や家族、また地域に向けて、情報発信されてはどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	須磨区のグループホーム連絡会で意見交換を行っている	運営推進会議以外にも地域ケア会議やグループホーム連絡会などで市職員と顔を合わせることが多く、良好な協力関係にある。会議の中で情報交換をはじめ事業所の取り組み、職員確保の課題などの意見交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内部研修を行い、理解に努めている。フロア会議でもその都度話あっている。玄関の施錠は基本的に行っていません	職員は研修により十分に理解した上で身体拘束をしない、利用者個々へ適切なケアを実践している。玄関の施錠は行っていないが、ユニットの入り口は階段があり、危険防止の意味もありロックしている。	ユニット出入り口のロックによる利用者の感じる閉塞感を理解し、見守り方法を工夫するとともに、限られた時間でも解錠する試みと、ユニット間の自由な交流を望みたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の内部研修を定期的に行い、理解に努めています。虐待につながる不適切ケアにも注意するように、職員同士でコミュニケーションをとり、声掛けにも注意しています。職員は虐待の外部研修にも参加しています	外部研修で職業倫理を学び、内部研修では虐待につながる不適切ケアやストレスマネジメントの研修を行っている。特に言葉遣いや声のかけ方などに注意をしケアを実施している。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての制度の冊子をフロアに置いている	成年後見制度を利用している利用者が1名いるが、まだ身近な事例として職員に浸透していない。今後、研修の機会を持つ予定である。	権利擁護の理解を深め、利用者に情報提供や相談に応じることができるようになることを期待したい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約内容を読み上げながら説明を行い、同意を得て契約を行っている。改定等については文書にて説明し、同意を得ている	商店街にある立地のため、問い合わせの約半数は飛び込みの来所となっている。契約の前に見学を勧め、面談を実施し、十分な説明と理解を得るよう努めている。契約時は費用面や、医療連携体制により看取りにも対応可能であることなど、重要ポイントを押さえ説明している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に面会用紙に御意見を記入して頂ける欄があり、意見や要望を記入して頂いている。運営推進会議開催時は家族様に日時を通知すると共に文書にて意見・要望を聞き、会議で検討し、運営に反映させている	近隣に家族が住んでいる利用者が多く、度々家族が来所する。その際、要望を聞いたり、面会用紙に意見や要望の記入がある。しかし日常的なケアに関することが多く、運営に関する意見は少ない。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議・各フロア会議で意見や提案を聞く機会を設けて、反映させている	幅広い年齢層の職員が協働し業務に携わっている。毎月の全体会議やフロア会議の席では職員全員が発言できるよう工夫している。記録様式やレクリエーションの企画提案などの意見を反映している。事業所主催の秋祭りの成功は職員の大きな自信につながった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の努力や目標を把握し、向上心を持って働けるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員個々に合わせた外部研修に参加させ、事業所内で研修を行い、職員全体のスキルアップを目指している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	須磨区のグループホーム連絡会に参加し情報交換を行っている。あんしんすこやかセンター主催の地域連絡会に参加し、地域のネットワーク作りを行ってサービスの質を向上するように努力している		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居契約時にご本人の生活歴や心身状況や入居に際しての希望をご本人・家族様より聞き取りを行い、安心して生活して頂けるように関係づくりに努めている		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にご本人・家族様より不安や困っている事をお伺いし、ケアプラン作りに反映させている		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に必要となるサービスについて説明をし他のサービスも含めた提案を行っている		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が興味を示される事や出来る事はご本人に行って頂けるように職員がコミュニケーションを取りながら関係を築いている		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日の様子や行事を毎月のお便りや面会時に報告している。ご本人の誕生日会などには家族様にも参加して頂きご本人を支えていく関係を心掛けている		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・友人・知人の方との面会や外出等が随時出来るように支援している	家族の面会が多く、来所してもらいやすい雰囲気づくりを心がけている。面会者がリビングで他の利用者と共に談笑することもあり和やかな光景が見られる。家族の付き添いで外出や外泊の機会も多く、地域の盆踊りなどのイベントで知人に出会うこともある。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を職員が把握し、皆様に楽しく過ごせるように関わり合って支えあえるように努めている		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても気軽に相談が出来るような関係でありたいと思う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23 (12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でのコミュニケーションの中で入居者一人一人の思いや希望を把握出来るように努力している。また家族様と話合ったりしながら本人本位となるように努めている	介護度が平均、要介護2.2で意思の疎通が可能な人が多い。担当者を中心に利用者の意向の把握を行い、調理の参加や入浴時間の選択、外出の希望など主体的な意思を尊重し支援している。利用者の他者との関わりの中で意向や思いの把握に努め、得た情報はケース記録に残し共有している。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境については個人ファイルを作成しているので職員は情報収集して把握出来るように努めている		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で表情・態度などにも観察に努めて何事も一緒に行ってみる機会を設け、一人一人の現状の把握に努めている		
26 (13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当が中心になって日々の生活の中での気付きや思いをご本人・家族様・主治医参加のもとサービス担当者会議にて話し合い、介護計画を作成するように心掛けている	利用者の日々の観察点や要望などは丁寧に記録し、職員間で情報を共有している。担当者が中心にモニタリングを実施し、カンファレンスで意見交換している。サービス担当者会議は利用者・家族を交え医師が毎回参加し利用者の意向に沿った具体的なケアプランを作成している。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入し、申し送り時に職員間で情報を共有し介護計画に活かしている		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の中でその時に生まれるニーズに対応出来るように取り組んでいる。通院時に家族様の対応が困難時は送迎・付き添いにも対応している		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に入居者様と参加したり、商店街にて買い物をして頂き、安全で楽しめる生活が送れるように支援している		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の医師をかかりつけ医にしており、日々の健康管理は主治医が把握している。必要時は専門医への紹介も行っている。歯科医の往診もあり 受診時は家族様と情報を共有している	契約時に、利用者、家族納得のうえで、協力医療機関を主治医としており、現在、全利用者が利用している。週2回の往診だけでなく、緊急時での体制も確保されている。希望により歯科往診も利用できる。以前から主治医としている利用者もおり、家族にとって相談しやすい。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で気付きや情報は看護師に伝えて相談が来ている。主治医との連携で適切な受診や処置が受けられるように支援している		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入院先病院へ主治医からの診療情報とホーム内での生活・内服薬等の情報提供を行い入院先の病院と連絡を取り合っている	開設後、転倒骨折が1件あったが、主治医の指示の下、入院先との速やかな連携が図られた。早期退院に向け、利用者が安心して治療できるよう、職員が面会時に声かけするなど訪問している。退院後は、事業所での生活リハビリを重視している。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人・家族様より重度化した場合や終末期に対する意向を確認し、事業所の方針を説明している	契約時に、事業所の方針を説明し、納得を得ている。多数は、事業所での終末期を希望しており、家族とは口頭で意思確認している。事業所として、重度化及び終末期に関する研修が必要であることから、今後検討していく考えである。	事業所としての方針及び意思確認についても、文書化されてはいいかがか。
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時は主治医のオンコール体制にて指示を受けられるようになっている。応急処置や心肺蘇生の研修は出来ていないので今後速やかに研修を行う必要がある		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練に参加し、迅速に非難が出来るように職員は避難経路を周知している	開設間もなく、近隣スーパーへの避難訓練に参加した。10月には併設施設合同による昼間想定訓練を利用者共に行い、避難経路等の確認を行った。地域住民への協力依頼については、今後働きかけていきたいと考えている。夜間想定は、次回の実施に向け検討している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉遣いと態度を心掛けて入居者様一人一人のお話を傾聴するように対応している	日常的な挨拶を職員に周知させている。管理者は、毎月の会議や日々の申し送り時に、その都度伝えている。職員は、利用者個々のペースや個性を尊重しタイミングをみて声かけするなど、注意している。クイズ形式による接遇研修の中で、繰り返し学んでいる。	
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が発する言葉からご本人の思いや希望をくみ取る努力をすると共にいろいろな場面で自己選択・自己決定が出来るよう声掛けを行っています		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活のペースを大切にし入居者様の希望に沿って支援している		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪・服装など声掛けにて支援をしている。2ヶ月に一度訪問理美容を利用してその人らしい髪型に出来るように支援している		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様には職員と一緒に食事の準備～後片づけまで積極的に関わって頂く事で3度の食事を楽しく味わって頂けるように支援しています	委託業者から毎日食材が配達され、職員が調理している。利用者の得意な事や役割を活かし、盛り付けや配膳と一緒にやっている。いも羊羹やクレープなど一緒に手作りすることもあり、利用者は楽しみにしている。職員は、介助しながら一緒に食している。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事摂取量と水分摂取量を記録している。一人一人に合わせた食べやすい食事の形態を調節している		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医による義歯の装着方法や口腔ケアの研修に参加しアドバイスを受けながら一人一人に合った口腔ケアを毎食後行っている		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄状況を把握しています。一人一人に合った排泄パターンを把握しトイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている	ほとんどがリハビリパンツにパットを利用しているが、自分でトイレで排泄している人が多数である。職員は、個々の排泄パターンを把握し、さりげなく食事の前後に誘導することもあり、できるだけ失敗を無くすよう見守っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し排便状況を把握しています。散歩・体操・お買い物など体を動かす機会を設けて、ヨーグルトや起床時の冷水で腸の働きを助けるように個々に対応しています。トイレにレストテーブルを設置し排便時の体位に利用している		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の入浴希望日・希望時間に沿えるようにご本人のペースで入浴を行っている。拒否のある方に対しては無理にお誘いせずに入りたいと思って頂けるような声掛けを行っている	週3日を目安にしているが、利用者の希望を優先し、入りたい時に入ってもらおうようにしている。毎日入る人もおり、希望がない場合はこちらから声かけしている。無理強いせず、その人にあつた声かけの工夫をしている。歌を歌ったり、職員とおしゃべりを楽しみしている人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人、ご本人のペースに合わせて起床・就寝して頂いている。日中でお疲れの様子の際は声掛けを行い、休息して頂けるように配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の薬剤情報を個人用ファイルに保管し、職員全員が把握出来るようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴などからその人に合った日課や役割を見つけ出し、生活に張り合いや楽しみのある日々を過ごして頂けるように支援している		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その人に合った役割や日課を見つけ出して、張り合いや喜びのある生活を過ごして頂けるように支援している	利用者の意向に応じて、目の前のスーパーに買物に行ったり、近隣の商店街や公園まで散歩している。地元の盆踊りやイベントに参加することもある。行きたい所の要望を受けて、遠方に出かけることもある。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が財布を持って、好きな時に買い物に行けるように支援している		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に沿って電話をかけたり、手紙を書いたりしている		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーから景色が一望出来、季節感を感じて頂いている。いつもクラシック・愛唱歌などの音楽を流している。フロアーに季節の飾りを飾ったり絵を飾ったりしている	ゆったりとした空間に真新しいオープンキッチン、コーナーにあるソファ、テーブルが複数配置されている。ベランダのある窓からは明石大橋が眺められ、利用者は思い思いにくつろいでいる。余計な飾りつけはなく、観葉植物のグリーンにより、落ち着いた雰囲気となっている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくりとくつろいで頂けるようにソファを備え、テーブルを囲んで談笑したり、昔の歌を歌うなど皆様に楽しんで頂いている		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理タンスを始め、絵画・写真など大切な品々を持って入居され、使い慣れた馴染みの物に囲まれて居心地よく過ごして頂ける工夫をしている	洗面台、ベッドが備え付けとなっている。洗面台には、その人が使う洗面具や化粧品等が置かれている。ハンガーには、好みの洋服が掛けられ、整理筆筒にも着替えが収納されている。その人の個性がうかがわれる。夫婦部屋として利用できる個室も用意されている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やフロアー内に手すりがついており、出来るだけご本人が安全に自立した生活が送れるように工夫している		